

2026

9

September
No. 403

広
報

みしま



福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

8月9日に行われた「二十歳を祝う会」で、式典終了後に母校を訪れ、恩師や友人と当時を懐かしみ、楽しいひとときを過ごしている様子。

二十歳を迎えた5人が語る、ふるさと三島町への思い

5人からは、「自分たちにできることを生かし、これからも町に貢献したい」と、ふるさとへの思いが語られました。

町を取り巻く環境は、人口減少や少子化などにより変化しています。今回のトークセッションで語られた5人の率直な意見を今後の教育やまちづくりに生かし、ふるさととのつながりを大切にしながら、将来も暮らし続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

【子どもたちへの「応援」とふるさと三島町との「これからのつながり方」】

帰省した際やスポーツなどを通して、礼儀作法や医療など、それぞれの知識や経験を生かし、自分たちにできることで町に貢献したい。

町のイベントや地域活動にも積極的に関わっていききたい。

【外の世界から見た「三島町の教室」】

人数が少なく、誰かがやらなければならぬ環境だったからこそ、さまざまなことに挑戦できた。また、それを支える周囲のサポートや温かさがあった。

一方で、町では知っている人ばかりの環境だったため、町を出てからは、多様な人とながらためのコミュニケーションに苦労した。

式典に続き行われたトークセッションでは、町の教育や今後の町とのつながり方について、二十歳を迎えた5人と意見を交わしました。



▲ 式典後の小・中学校訪問と、祝賀会の様子



▲ トークセッションの様子

ふるさとに貢献する誓いも新たに！

二十歳を祝う会



8月9日、三島町交流センター山びこにおいて、「二十歳を祝う会」が開催され、二十歳を迎えた5人の皆さんが出席しました。

代表あいさつでは、二瓶教香さんが、「私たちはそれぞれ進学や就職などで町を離れる者もありますが、この町で学び、経験したことを胸に、それぞれの場所で責任ある大人として歩んでいきたいと思っています。そして、いつか成長した姿で町に恩返しができるよう、一人ひとりが努力を重ねていきます」と抱負を述べました。

矢澤源成町長からは、「皆さんがいつの日かこの町に戻り、『ここで暮らしたい』『ここで未来を築きたい』と思える町でありたいと願っています。そのために、若い世代が安心して暮らし、働き、将来を描けるまちづくりに、覚悟を持って全力で取り組んでまいります」とのメッセージが贈られました。

出席者の皆さんは、久しぶりに再会した友人や恩師との交流を楽しみながら、思い出話に花を咲かせていました。また小学4年生の「二分の一人式」の際に書いた「二十歳の自分」宛ての手紙を開封し、会場は恩師とともに懐かしい思い出を振り返る、温かな笑顔に包まれました。

最後に、町の関係者や、保護者の方々と一緒に記念撮影が行われ、式典は終了しました。



二十歳の誓い

星 明音里 (西方)	大学で語学を学んでいます。去年から今年にかけ、約半年間の語学留学も経験しました。言語力を生かした仕事に就きたいと考えていて、勉強を継続して頑張ります。
菅家 大貴 (川井)	大学の教育学部で学んでいます。立派な大人になるために、日々を大切に過ごしていきたいです。
飯塚 真林 (西方)	大学で看護を学んでいます。これまで学んだ知識や技術を生かして実践力を身に付けたいです。卒業後は県内の病院に就職を考えています。
五十嵐 望 (大谷)	役場で水道業務を担当しています。今までのさまざまな経験を生かして今後の仕事に取り組み、業務を一つ一つ確実にこなし、町に貢献できる大人になりたいです。
二瓶 教香 (桧原)	大学で作業療法を学んでいます。卒業後は、会津に帰り、地元の人の生活を支えるため作業療法士として働きたいです。国家資格取得と卒業を目指し励んでいます。

生活工芸がつないだ国際交流

—台湾インターン生が過ごした三島町での1ヵ月—

三島町では、台湾工芸交流事業を通じて、約30年にわたり台湾の工芸関係機関との交流を継続し、工芸を軸とした人材交流や文化交流を推進してきました。

令和5年には、国立雲林科技大学と友好交流協定を締結し、大学やものづくりコミュニティへの視察研修を行ったほか、台湾の教育先進校との交流にもつなげていただくなど、親交を深めてきました。その中で、同大学から本町へのインターン生受け入れの要望が寄せられ、今年度初めて受け入れが実現しました。本事業は、これまで築いてきた協力関係をさらに発展させるとともに、インターン生の来日目的や学習ニーズを把握し、その達成に向けた支援を行うことを目的としています。

また、台湾は、訪日外国人旅行者数も多く、日本への関心も高い国です。本事業では、インターン生や台湾からの観光客の視点をとおして三島町の魅力や地域の課題を把握し、今後のインバウンド推進や地域振興に生かしていくことを目的としています。

インターン生は、工芸・教育・観光の各分野における交流や学びを深めるとともに、地域での活動を通じて三島町の魅力を体験し、また町民との交流を図りながら、7月13日から8月7日までの26日間、町に滞在しました。本町としても、この機会を新たな国際交流の一步と位置付け、今後も台湾との友好関係を深めながら、地域の活性化につなげていきます。



▲ 浅岐地区の沢で、剥がしたシナノキの樹皮（モワダ）を洗っている様子



▲ 小学校での交流



▲ 中学校での交流



▲ 工人の館でのヒロロ体験



ライ ウーチエイ 頼 威傑さん（左）施 昱宸さん（右）

日本のものづくりについて学びたいという思いから、今回のインターンシップに参加しました。以前から日本のものづくりや伝統文化、地域の暮らしに関心があり、実際に日本で生活しながら学ぶことを楽しみにしていました。

三島町では、町の方々からものづくりを教わったり、交流したりする中で、日本の文化や暮らしを身近に感じることができました。また、豊かな自然や人とのつながりにも触れ、台湾とは異なる地域の魅力を知ることができました。

今回の経験を今後の学びに生かし、台湾の人たちにも日本や三島町の魅力を伝えていきたいです。さらに、三島町の魅力を今後の外国人誘客や地域振興にどう生かせるか、これからも三島町との関わりの中で共に考えていきたいと思っています。

草原に吹く、爽やかな高原の風を楽しむ

思い出の夏、「みさかDEあそぼ！」



今年の「みさかDEあそぼ！」が、8月12日に美坂高原で開催されました。

このイベントは、お盆に帰省するご家族や町を訪れるみなさんに、美坂高原の豊かな自然の中で楽しいひとときを過ごし交流を深めてもらおうと企画されたもので、今回で4回目の開催となります。当初2日間の開催予定でしたが、初日はあいにくの雨で中止となり、2日目は快晴に恵まれ予定どおり開催されました。

当日は、お盆休みを過ごす町内外の多くの方が訪れ、会場はにぎわいを見せました。

子どもたちは、プールで水遊びを楽しんだり、シャボン玉を飛ばしたりなどしながら、夏の暑さを吹き飛ばすように元気いっぱい遊んでいました。また、広大な高原での2人乗り自転車や流しそうめんを楽しむご家族の姿や、生活工芸館職員の指導のもと、ヒロロを編んでストラップづくりを楽しむ姿も見られました。会場には観光協会やキッチンMORYさんの出店もありました。

帰省した家族など、町内外からの多くの来訪者が美坂高原を訪れ、友人との再会や交流を深めました。かつて遊んだ景色の中で、町が誇る観光地としての魅力を改めて実感する機会となりました。

広大で自然あふれる高原でのひとときをとおして、昔のようにまた町内外から多くの方が訪れ、つながりの輪が広がりがつづけていくことを願います。

特集 「住みたい、住み続けたい ふるさと(桐源郷)を創る」ために

三島町で働き暮らす魅力とは シリーズ第3回

前回まで「住みたい、住み続けたいふるさとを創る」ために仕事の確保は欠かせない課題として、三島町に住み、三島町の企業で働く人へのインタビューをとおして三島町の企業を紹介してきました。

現在三島町では、高齢化に伴う農業従事者の減少により遊休農地が増加しています。そのことは農地の荒廃や鳥獣被害の拡大、里山景観の悪化などにもつながります。それらを防ぐためにも三島町の農業従事者は地域の担い手として貴重な存在です。

今回は三島町において個人で農業を営む方へのインタビューをとおして、仕事の選択肢の一つとしての三島町の農業を知っていただくとともに、持続可能な三島町づくりを支える人々の姿を紹介します。

農家の方へのインタビュー

小松 まさのぶ 正信さん
(70代)

専業農家(米、ソバ)
認定農業者

西方地区在住
三島町出身

農業歴57年



Q1. どのような農業をされていますか？

稲作(12ha)とソバ(2ha)の栽培をしています。
米はJAや商店に出荷する他、「米の産直」として、ストックしておいた米を注文があった際に精米し、個人に販売することも行っています。

Q2. 農業をはじめたきっかけを教えてください

私は会津農林高校の農業科を卒業後に家業の農業を継ぎました。当時は家でやっていた養蚕を大規模にやろうと思っていました。そのため会津坂下町の雑木林を2haほど開墾して桑畑にしたこともあり

ました。
稲作が経営の柱になったのは、基盤整備が行われた際に稲作をやめた人の田を引き受けるようになってからです。現在は西方地区の水田の8割を担っています。10年前からは大登地区(中川井)の水田も集積し耕作しています。

右上

「ソバ」は、経営的にというより、家の周りを荒らさないために耕作しています。「畑を何とかしてくれ」と西方地区の住民から依頼を受けて10年前から始めました。種まきから収穫、乾燥、出荷までを行います。

Q3. 三島町の農地の特徴を教えてください

会津若松で20aの水田といった小さい方ですが、三島町では大きい方です。また、1枚ずつ田の条件が違います。乾田と湿田が同じ区画の中にあります。暗渠あんきょが整っていないからです。

畑に関しては、元々畑だったところが林地化し、個人の手に負えません。広く開墾し、大きく電柵で囲うなどしなければ、使えない状況です。

また最近はいノシやニホンカモシカ、ニホンジカなどの野生動物による作物の被害が多くなっています。

Q4. 農作物を育てる際に大切にすることは何ですか？

より多くの収穫量を目指して田畑や人に無理をさせ過ぎないことを大切にしています。

Q5. 農業のよいところ、大変なところは何ですか？

「米の産直」をやっていて「おいしい」と言われることにやりがいを感じます。「他の米を食べてみただけ小松さんのお米の方がよい」と言われるとうれしいです。それに自由があるところもよいです。また草刈り後、きれいになったら清々しく達成感があります。

大変なことは、西方地区が水の少ない地域だということです。米が無事に収穫できるまでの4か月間、心配が絶えません。

Q6. 収入について教えてください

所得目標は1千万です。やろうと思えばできます。その人が目標をどう立てるかということです。最初の赤字を埋めるのは難しいので、初めは失敗しないようにきちんと人の話を聞いて生産することが大事です。

Q7. 副業はしていますか？

12月～3月は郵便配達をやっています。

Q8. 農地や住まいはどのように取得できますか？

農地は、頼まれて耕作することがほとんどです。管理する人がいないから荒れています。やる気があれば土地はあります。

住まいは、西方地区にも空き家がたくさんあります。

Q9. 三島町で農業を営む生活はどうですか？

もともと植物栽培が好きで農業をやっています。
多くの人が離農して水田がなくなったら、獣が来るなど、環境が変化するのはわかっていました。米は基本の作物だと思う。地区にやる気がある人がいなければ地区は荒れる。一人いれば地区が変わる。私みたいに多くの水田を引き受ける人間がいてもよいと思っています。

75歳までやってきたから、「よかった」というしかないです。西方地区はある程度水田の面積が大きかったからよかった。小さかったら収入にならず経営が成り立たないから。農家だからまだ仕事を続けていられます。

Q10. 求める後継者はどんな人ですか？

稲作も畑も、私がやっている経営をしっかり受け継いでくれる人。福島県の補助金(交付要件あり)を受けて就農することも可能なため、自分が本当にやりたい農業に従事することで、今後の三島町を担える人を求めています。



私のスケジュール(農家の暮らし)

【1日のスケジュール】

変動がありすぎて何とも言えません。やるときはやるしかないが余裕のあるときはのんびりしています。

【1年のスケジュール】

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種まき				4/20 →								
耕耘				5/20～6/20 →								
しろか 代掻き				5/20～6/20 →								
田植え				5/20～6/20 →								
草刈り				～収穫まで →								
収穫							9/15～10/20 →					
乾燥							9/15～10/20 →					
調製(糲摺り、 選別、袋詰め)							9/15～10/20 →					
出荷							9/15～10/20 →					

菅家壽一さんが、監査委員に再任

菅家壽一さんが、8月18日付けで三島町の監査委員に再任されました。今回で3期目となり、任期は令和8年8月18日から令和12年8月17日までの4年間です。

監査委員は、町の財務に関する事務の執行や経営に係る事業の管理などについて、公正かつ効率的に行われているかを監査する役割を担っています。

これまでの経験を生かし、町の行財政運営を支える監査役として、引き続きご尽力いただきます。



町に個人県民税優良町村感謝状が授与されました



▲玉川啓会津地方振興局長（右）と矢澤町長及び町民課職員

8月19日、町長室において、玉川啓会津地方振興局長から町へ、個人県民税優良町村の感謝状が授与されました。

これは、町が長年にわたり徴税に尽力し、高い徴収率を維持していることに加え、県からの指導や研修を受けながら、徴税業務の向上に取り組んでいる姿勢が評価されたものです。

玉川啓会津地方振興局長からは、「こうした努力の積み重ねが、徴税業務の支えとなっています。これからも引き続きお願いいたします」と感謝の言葉がありました。

これを受け、矢澤町長は「なお一層努力し、今後も一丸となって徴税に励みます」と述べました。

町では、今後も納税者の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、適正な課税と徴収に努めていきます。

「子ども主体の授業・学校づくり」を学ぶ

——— 三島町教職員「保・小・中きずなプラン」夏季研修会 ———

7月30日、三島町交流センター山びこで、文部科学省の学習指導要領改訂の中心メンバーである学習院大学の秋田喜代美教授を講師にお招きし、三島町教職員「保・小・中きずなプラン」夏季研修会が開催されました。これからの時代に求められる「子ども主体の授業づくり・学校づくり」をテーマに、町外の教育関係者を含め約50名が参加しました。

前半は、三島小の算数の授業実践をとおして、授業における課題づくりや、多様な個を生かす教師の立ち位置、隣の人との交流や全体での共有の効果的な在り方について、参加者同士の話し合いを交えながら丁寧に学びました。

後半は、次期学習指導要領の方向性について、「主体性」や「深い学び」、「時間の質」など、現在検討されている課題を取り上げ、具体的に解説していただきました。

今回の研修をとおして、一人一人の子どもの思いや考えを大切にする授業や学校の在り方について、さらに研鑽を深めることができました。今後も保・小・中のさらなる連携をとおして、子ども主体の授業づくり・学校づくりに努めていきたいと思います。



安藤 香奈子さん
(40代)

専業農家（カスミソウ）
認定農業者

滝谷地区在住
茨城県日立市出身

農業歴6年目



Q1. どのような農業をされていますか？

カスミソウ（ハウス14棟）、ノゲイトウ、アワ、テイオウカイザイクの花卉栽培です。

Q2. 農業をはじめたきっかけを教えてください

三島町生活工芸アカデミー生として令和元年に三島町に移住し、先輩農家の方のお話を聞くうちに、カスミソウ栽培に興味を持ちました。

Q3. 農作物を育てる際に大切にすることは何ですか？

咲いた花をなるべく無駄にしないことです。1人でやっているので作業量に限りがあり、少ない面積で多くの収量が上げられるように心がけています。現在14棟のハウスを管理していますが、カスミソウ農家の先輩はご夫婦で60棟管理されていたこともあったそうです。その秘訣は「無駄がなかったこと」だと思います。

Q4. 農業のよいところ、大変なところは何ですか？

自分の裁量で仕事を進められることが、個人で農業を営む魅力です。

一方で、天候に左右されることや、収穫時期にはなかなか仕事を離れられないことに大変さを感じています。

Q5. 収入について教えてください

1人で暮らしていく分は稼げています。

Q6. 副業はしていますか？

冬期間の編み組細工です。また、栽培した花をドライフラワーにして販売もしています。

Q7. 休日はいつですか？

天候と予定次第で取ります。収穫が始まったら作業中心になりますが、冬はまるまる休みになります。

Q8. 農地や住まいはどのように取得できますか？

農地は、カスミソウ農家の先輩が栽培規模を縮小されるということなので貸してもらいました。交渉次第ですが、三島町で農地は探しやすいと思います。

住まいは、町の空き家バンクで探して入手しました。

Q9. 三島町で農業を営む生活はどうですか？

専業農家が少ないので、「農業をやっている」と話す応援してくれます。皆さん大変さがわかっていて、手伝ってくれる人もいます。

三島町に暮らすメリットは、編み組細工があることだと思っています。夏場の農業と、冬場の編み組細工を楽しんで行けたらと思います。

Q10. 今後の抱負はなんですか？

仕事面では、このカスミソウ農家をなるべく長く続けていくことです。

生活面では、農業、編み組細工、健康マージャンなどをとおして知り合った地区外の同世代以外の人々との交流を楽しんでいきたいと思っています。

Q11. 新規就農を目指す方へのメッセージ

農業は米や野菜といった、食べ物を作るものだと思っていましたが、花卉栽培は大型機械が不要なこともあり一人で始めやすいことがわかりました。カスミソウ栽培はハウスにお金がかかりますが、露地栽培だと、なお始めやすいかもしれません。

私のスケジュール(農家の暮らし)

【1日のスケジュール】

6月中旬～11月中旬【収穫期】				
3～6時 カミソウ収穫	6時半～8時 水やり	8時～12時 調製	12時半～19時 調製	19時～20時 集荷場搬入、片づけ

▲調製とは…長さを切り揃え余計な葉を取り、10本束にする作業。

【1年のスケジュール】

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
畑の準備			3月下旬									
収穫						6月中旬～11月中旬						
畑の片づけ										11月中旬～12月上旬		

来場者 500 万人達成！ 道の駅「尾瀬街道みしま宿」

道の駅「尾瀬街道みしま宿」では、2002年4月の施設オープンから数えて、8月22日に記念すべき500万人目の来場者を迎えました。

500万人目となったのは、新潟県から訪れた神保さん^{じんぼ}のご家族です。金山町の炭酸水を汲みに行った帰りで、三島町を訪れたのは初めてということでした。

神保さんには、布川駅長から記念品として、カスミソウの花束と会津桐の茶筒、山菜加工品など、町の特産品の詰め合わせが贈られました。

三島町について神保さんは、「緑がいっぱい、川霧もきれいで、運転していて気持ちよかったです。次はビューポイントや工芸館など、もっといろいろなところを巡ってみたいです。」と感想を話していました。



道の駅「尾瀬街道みしま宿」では、これからも地域の観光情報や特産品など、町の魅力を発信するとともに、多くの皆さんに親しまれる道の駅を目指していきます。皆さんのご来場をお待ちしています。

◀ 500万人目の来場者となった、神保さんのご家族と布川駅長（左）

企画展「奥会津の道」開催中！ 関連企画「奥会津のむかし話一道一」開催！

交流センター山びこでは、9月27日まで奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の道」を開催中です。伊勢参りの道中記、沼田街道・美女峠街道・野沢（西方）街道といった各街道の開修、悲願であった鉄道の延伸、夏冬の履き物や運搬用具など、三島町の“道”に関する幕末から昭和にかけての資料や写真、民具等を展示しています。

8月22日には関連企画として「奥会津のむかし話一道一」が開催され、奥会津の町村から9名の語り部が集い、各地に伝わる昔話が披露されました。三島町からは茂田龍揮^{りゅうき}さんが「美女峠」を、五十嵐七重さんが「話千両」を語り、その後、只見町出身の語り部・斎藤美智子さんと五十嵐七重さんの特別対談が行われ、奥会津に語り伝えられてきた昔話や道に関するさまざまなことを話されました。イベントホールに集まった110名の来場者は、語り部たちの話に聞き入り、会場は大変盛り上がりしました。



▲ 斎藤美智子さん(左)と五十嵐七重さん(右)の特別対談

「ロケットストーブで飯ごう炊飯！」 —— 夏休み体験ワークショップ ——

8月18日、宮下活性化センターにおいて、NPO法人会津みしま自然エネルギー研究会主催で、公民館が後援をしている「夏休み体験ワークショップ」が開催されました。

昨年から夏休みの子どもたちを対象に、さまざまな学びの機会を提供している事業で、今回は薪割りからロケットストーブを使った火起こし、飯ごう炊飯まで一連の作業に挑戦してもらいました。

当日は、11人の子どもたちをはじめ保護者やスタッフなど、計23人が参加しました。

参加者は、スタッフの指導のもと、慣れない作業にも協力しながら一生懸命取り組み、無事にやり遂げました。炊き上がったご飯は、保護者が作ったカレーと一緒にカレーライスにして、おいしそうに味わっていました。

普段の生活ではなかなか体験することのない火起こしからの食事づくりを、子どもたちは楽しそうに取り組んでいました。

ロケットストーブとは・・・

少量の燃料で高い火力を生み出すことができる燃焼効率の高いストーブです。化石燃料がなくても、まつぼっくりや枝などの身近な材料を使って高火力が得られることから、キャンプでの使用はもちろん、非常時の備えとしても役立ち、手軽に作ることができます。



▲ LED ランタンをつくる子どもたち

「つくって、遊んで、学ぶ環境教室！」

8月20日、町民センターにおいて、公民館事業の「環境教室」が開催されました。

本教室は、三島町と連携・協力協定を締結している国立環境研究所の協力により、毎年実施しています。今回は、パナソニック株式会社のご協力も得て、照明の仕組みや電力について学ぶ「手作りLEDランタン工作」をはじめ、環境についてのクイズを交えた「環境スゴロク」、手巻き発電機を使った模型電車の発電・走行実験などを体験しました。

参加した15名の小学生は、楽しみながら実験や工作に取り組み、電気がつくられる仕組みや地球温暖化、再生可能エネルギーについて学び、理解を深めました。

今回の教室をとおして、子どもたちが身近な環境問題やエネルギーに関心を持ち、日々の生活の中で考えるきっかけになることを願います。今後も公民館では、楽しみながら学べる学習の機会を提供していきます。

【滝原】土用のおこもり（7月20日）

佐久間 絹江さん

7月20日午後7時より、駒形神社において土用のおこもりが行われました。

梅雨明けから暑くなる日々を健康に過ごせるよう、神社総代、地区の方々が参集し、神々に祈り、御神酒を酌み交わしながら、歓談しました。

諸事情により、参集される方々が少なくなりつつありますが、今後も長く引き継いでいきたい慣習です。



【早戸】早戸温泉つるの湯周辺の一斉草刈り（8月2日）

橋本 光五郎さん

8月2日の午前6時から滝原地区、早戸地区の住民による早戸温泉つるの湯周辺の一斉草刈りが行われました。

昨年までは遊歩道周辺をも含めて草刈りを行っていましたが、今年は温泉神社からつるの湯周辺を集中的に草刈りする事として実施されました。

高齢化等により、だんだん参加者が少なくなる中、今年早戸地区に移住された方も参加してくださり、新たな「戦力」を迎えての作業となりました。この作業でお盆休みにつるの湯を訪れた方々が、少しでも気持ち良く入浴していただけたのであれば幸いです。



【滝原】ボランティア活動でコスモス畑の除草作業（8月2日）

佐久間 絹江さん

「早戸温泉つるの湯遊歩道草刈り」作業終了後の午前7時より、6月に種まきをしたコスモス畑2箇所の除草を行いました。

時折、小雨の降る中、連日の豪雨で成長著しい雑草を手作業で取り除きました。

中には、早々と花を咲かせているものもあり、「咲き揃ったら見事だろう」と思いを巡らせました。



雨にも負けず大盛況！「みしままちびあがーでん」

8月22日、西方ふるさとセンターで、第9回「みしままちびあがーでん」が開催されました。

このイベントは、町民同士の交流の場をつくろうと、有志でつくる「三島町第三金曜会」が2015年から開催しているもので、町が後援をしている事業です。当初は宮下地区で開催されていましたが、現在は宮下地区と西方地区で交互に開催されており、西方地区での開催は今回で4回目となりました。

開始直後は激しい雨に見舞われましたが、ほどなく雨も上がり、次々と人が集まりました。会場に明かりが灯る頃には熱気も高まり、大勢の来場者で賑わいました。

小学生以下の子どもたちを対象としたスイカ割りや来場の皆さんでビンゴ大会を楽しみ、町内外から訪れた幅広い世代が交流を楽しみました。年齢や地域を越えて交流の輪が広がる、夏のひとときとなりました。



笑顔あふれる夏の熱戦！「グラウンドゴルフ大会」

8月24日、三島町老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会が、三島町生涯学習センターグラウンドで開催されました。

大会には、町内各地区から約20人が参加し、午前8時30分より5チームに分かれて競技が行われました。白熱した競技の結果、渡部重記さん（大石田）が見事優勝を果たしました。

この大会は、30回を超える歴史を重ね、毎年8月に開催されています。ホールインワン賞やブービー賞など、さまざまな賞も設けられており、受賞者には景品が贈られました。参加者や関係者は、最後まで笑顔で大会を楽しみました。



▲優勝した渡部重記さん（大石田）



【間方】送り盆（8月15日）

菅家 寿一さん



▲ 各家々から集まった送り火を囲み賑やかな送り盆

8月15日の夜は、お団子を背負って、ご先祖様がお帰りになります。14日の朝にお迎えして、たった一晚、一緒に過ごただけでお帰ります。

村上の方から、各家から大通りまで送り火が灯され、数か所に集まり、大きな送り火となり、その灯りを頼りに、ご先祖様方が一緒にお帰りになります。

大通りのそれぞれの送り火には、ご先祖様を送って来た人達が大勢集まり、ご先祖様の思い出話に話が弾みます。今年も子供が多く花火が始まりました、賑やかな送り盆の時間が流れて行きます。

迷わないでお帰りになるように、家の玄関から送り火を灯して、ご先祖様をお送りします。

【滝谷】「お盆 櫓 踊り」賑やかに（8月13日）

目黒 民一さん

滝谷地区の「お盆 櫓 踊り」は8月13日に地区集会所広場で開催されました。

地区の人や帰省した人達にも盛夏の風物詩としてすっかり定着した感じがします。

墓参りが済んで迎え火を焚くころになると会場の櫓や提灯にも明かりが入り、いよいよ櫓踊りの始まりです。力強い太鼓の音と笛や鐘の軽快な音色とリズムは独創的な甚句唄を引き立てます。趣向を凝らした仮装踊りもみられ、子ども達の浴衣姿は踊りの輪を一層盛り上げました。

また、会場では有志による焼き鳥や生ビール等の出店も並び、大賑わいでした。

櫓と踊りの輪の一体感に、歓声と熱気が響き合う中で、地区内外関係なく集まった方は一夜限りの櫓踊りを満喫していました。



【西方】伝統をつなぐ夏の夜「盆踊り」（8月14日）

西方区長 小柴 茂さん

8月14日、西方ふるさとセンターで盆踊りが開催されました。

地区では、区長を会長とする祭礼実行委員会を組織し、伝統行事の継承に取り組んでいます。櫓を建て、地区の皆さんにお囃子や太鼓をお願いするなどして、毎年盆踊りを開催しています。

今回も約50人が会場を訪れ、盆踊りを楽しむ人や、出店で焼き鳥などを買い求める人の姿が見られました。訪れた皆さんは、ふるさとでの盆踊りを楽しんでいました。

人口減少などにより、盆踊りの開催が年々難しくなっていますが、地区では、伝統行事をどのように継承していくかを検討しながら、これからも大切に続けていきたいと思っています。



地域おこし協力隊

活動誌

協力隊としての3年間を振り返って

皆さん、こんにちは。鳥獣対策専門員の鈴木です。8月31日をもって、地域おこし協力隊としての3年間の任期を終えることになりました。着任当時は令和5年のクマ大量出没の真っ只中で、着任早々クマ出没現場の確認やわなの設置などで大忙しでしたが、あの忙しさがあったおかげでこの町にもすぐに馴染めたと思っています。

私の任期は3年間という短い間でしたが、その間に三島町での鳥獣情勢は大きく変化しました。令和5年の大量出没から人家近くまで出没するようになったクマ、幹線道路沿いや桐の木の根元まで掘り返すようになったイノシシ、連日のように住宅地に現れては農作物を食い荒らしていくサル、着実にその数を増やしているシカなど、町にとっては厳しい情勢が続いています。

幸い、卒業後も三島町の鳥獣対策専門員として仕事を続けられることになったので、少しでもこれら鳥獣



の被害を減らすことができるよう、活動を続けてまいります。3年間の任期を通じて、「三島町から鳥獣の被害をなくす」という着任時の意気込みは、私の人生の目標になりました。この目標を達成するべく今後も精進してまいります。改めて、3年間の任期を無事に終えることができたのは、町の人たちの理解と協力があっておかげだと思っています。3年間本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。



▲ 鈴木 亮さん

第22回会津の編み組工芸品展が開催されます - 会津管内からの作品を募集しています -

10月10日④・11日⑤の2日間、「第22回 会津の編み組工芸品展」が開催されます。本展は、会津地域に受け継がれてきた編み組細工の振興と地域活性化を目的として、三島町をはじめ会津管内の工人の皆さんから作品を募集し、集まった作品を品評するものです。

審査会の日には、近隣の市町村長様にもお越しいただき、最高賞である「福島県会津地方振興局長賞」をはじめ、「三島町長賞」、「各市町村長賞」などが決まります。会場では、作品の展示販売のほか、制作実演やものづくり体験も予定していますのでご来場をお待ちするとともに、町内の皆さまからのご出品をお待ちしています。作品の出品締め切りは9月15日④です。



▲ 前回審査会の様子



▲ 前回会場内



※前回の受賞作品がご覧いただけます。



◀ 生活工芸館 HP

☎ 三島町生活工芸館 ☎ (48)5502

観光交流館
からんころん
三島町観光協会

第
186
号

〔三島町観光協会・観光交流館からんころん〕
営業時間 8:30～17:30 定休日 / 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)
〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下 214-5
☎ 0241(48)5000 FAX: 0241(42)7072 メール: mishima@oboe.ocn.ne.jp



工芸館だより 61 ものづくりの伝承

9/12④三島町の秋祭り

今年も宮下、西方地区にて、秋の実りを感謝し、農家の方たちに労いの意を込めて、秋の例大祭を開催予定です。両地区ともに神輿渡御や子ども神輿を出して、夜には賞品付きの仮装豊年踊りも行われますので、ぜひご参加ください。

三島町・奥会津関連のイベント情報

- 9/12 三島神社例大祭/宮下地区
稲荷神社例大祭/西方地区
- 9/13 ミサカノヨゾラ2026/美坂高原
- 9/13 ヒロロとクルミを使った編み組体験/
三島町生活工芸館
- 9/19 昔語り公開収録会/交流センター山びこ
- 9/18～20 奥会津フェア/道の駅国上(新潟県)
- 10/4・17 昔語り公開収録会/交流センター山びこ

【開催中】

●●交流センター山びこ●●

- 5/30～9/13 撮っておきのみしま町フォトコンテスト
- 7/18～9/27 奥会津の道

●●只見線団体専用臨時列車●●

- 9/22 あいづアフタヌーンティー・トレイン
(会津若松 ⇄ 只見)

〔車両〕SATONO号 〔購入〕ネット限定



健診結果説明会を開催しました！

vol.114

健康で元気な毎日！
町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

7月28日④から8月5日⑤まで、各地区で健診結果説明会を開催しました。健診結果の見方をみんなで確認し、自分の体が今どんな状態であるのかをしっかりと確認することができました。お腹周りばかりでなく、心臓や肝臓にも脂肪が付くということ(異所性脂肪)については、多くの人から驚きの声が聞かれました。終始笑顔があふれ、楽しい会場となりました。ご参加くださったみなさん、準備にご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。



▲ 桑原地区の様子

【健診結果説明会でお話したこと】

健康障害(脳卒中や心臓病、透析など)にならないためには、検査データをできるだけ基準値内にしておくことが大切です。大事な臓器や全身の細胞に栄養を運んでくれている血管を守り、末永く健康でいられるよう、細胞の傷を修正するビタミンを多く含む緑黄色野菜の積極的な摂取や、菓子パンをご飯代わりに食べたときには卵やカニカマ(タンパク質)、野菜サラダなどを足すことで栄養バランスを整えるなどの工夫について学びました。



▲ 浅岐地区の様子

新刊図書のご案内

町民センターゆめぽけっと

●今月のおすすめ

いのちの食べ方

～誰も教えてくれない、世界のヒミツ～

森 達也 作



牛や豚のお肉はどこから、どうやってやってくるの？
おいしいものを食べられるのは、多くの人や命に支えられているから。ぼくらの暮らしは、「だれか」の働きによって成り立っている。差別の歴史や戦争がなくなる理由など、「世界のヒミツ」をやさしく解説。ウクライナ戦争、ガザ、イランの問題や、平和のためにできることを考えるきっかけを与えてくれる。だれもが自分らしく生き、平和に暮らすための力と知恵がつまった一冊。
“知って、自ら考える”ことの大切さを伝える、ベストセラー＆ロングセラーの名作。

●その他図書の紹介

父娘ぐらし

～55歳独身マンガ家が8歳の娘の父親になる話～

渡辺 電機(株) 著



関係人口

～都市と地方を同時並行で生きる～

高橋 博之 著



※本を返却する際は、必ず「返却BOX」に入れてください。机の上や周りに放置しないでください。返却の手続きができません。

☎ 公民館 ☎ (48)5599



国環研だより 第 97 回

昔ながらの暑さ対策！打ち水は本当に涼しい？

三島町のみなさま、こんにちは。今回は、昔から夏の風物詩として親しまれてきた「打ち水」についてご紹介します。

打ち水は、江戸時代では玄関先を清めたり、訪れた人をもてなしたりする習慣として行われていたそうですが、近年では昔ながらの知恵を生かした暑さ対策として、改めて注目されています。

■打ち水で涼しくなるのはなぜ？

打ち水で涼しく感じるのは、水が蒸発するときに地面の熱を奪う「気化熱」の働きによるものです。環境省は、日中に打ち水を行った場合、気温そのものが下がらなくても、体感温度が約 1.5℃低下すると紹介しています。

また、東京消防庁では、打ち水によってどの程度涼しくなるのかを検証しています。消防学校のグラウンドで行った測定では、日が当たる場所の夏の地表面温度が約 70℃に達しましたが、打ち水を実施した場所では地表面温度が最大で約 30℃低くなりました。

打ち水だけで熱中症を防げるわけではありませんが、熱くなった地面を冷やし、足元から受ける照り返しを和らげる効果が期待できます。

■効果を長持ちさせるコツ

効果を長持ちさせるには、日差しの強い昼間よりも、朝や夕方に行うのがポイントです。また、水がすぐに蒸発しにくい日陰や、すだれなどで日陰をつくった場所にまくと、涼しさが続きやすくなります。

■いまでも活用される打ち水

打ち水は、現在でもさまざまな場面で活用されています。環境省は 2025 年に、東京の大手町・丸の内・有楽町地区で、企業や自治体と連携した「丸の内 de 打ち水」を実施しました。使用されたのは、地区内のビルから排出され、再利用できるよう処理された水です。打ち水は、暑さを和らげるだけでなく、水を大切に使う取り組みにもつながっています。

2025 年の夏には三島町周辺でも厳しい暑さが見られました。近隣の金山観測所では 7 月と 8 月に最高気温が 35℃を超える猛暑日が観測されています。エアコンなども適切に使いながら、玄関先や庭の熱を和らげる身近な工夫として、昔ながらの知恵を取り入れてみてはいかがでしょうか。

【参考文献】

- ・環境省「打ち水で夏を涼しく！『令和版』打ち水の作法」eco jin
<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/action/20230809.html>
- ・東京消防庁「消防科学セーフティレポート第 57 号（令和 2 年）一初任学生の熱中症予防方策に関する検証（環境測定）」
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/kouhyou/safetyreport/57.html>
- ・環境省「令和 7 年度『丸の内 de 打ち水』の開催について」
https://www.env.go.jp/press/press_00283.html
- ・気象庁「過去の気象データ検索 金山観測所」
https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_a1.php?prec_no=36&block_no=1044&year=2025&month=&day=&view=a2

●国立環境研究所福島地域協働研究拠点 地域環境創生研究室 ☎ 0247(61)6572



写真：水の気化熱を利用して、地面の熱をやわらげる打ち水（環境省 HP「ecojin」より）



筆者 ときわ たつひこ
常盤 達彦

町史編さん室だより

第128回

江戸期、滝谷組と大谷組の牛馬数

当町において昭和初年代後半の頃から貨物トラックが走るようになりましたが、馬に春々秋季は荷車を、冬季は櫓を曳かせての運送を営む馬車屋や馬車曳きなどと呼ばれた生業も引き続きありました。このような馬車や馬櫓による運搬は道路が拡張された近代以降のことで、それ以前は、美女峠開修前の状況として「坂路多キヲ以テ、貨物ノ運搬等ニ至リテハ、人ノ肩、馬ノ背ニ倚ルノ外ナシ」（宮下小学校『郷土誌』）とあるように、人や駄馬での運搬が主であったことがうかがえます。

江戸期、奥羽（東北地方）では馬が多く用いられてきましたが、険しい峠道が多い地域（例えば岩手県北上山地の一部）などでは歩みが遅くとも重い荷物を運べる牛が利用されたりもしました。今でいう奥会津においても運搬には主に馬が用いられていましたが、牛を用いた地域もありました。文化年間にまとめられた『新編会津風土記』の大石組（現金山町東部、三島町では早戸・滝原）の説明には「道路険シク駄馬ヲ通セス、常二牛ヲ用テコレニ代フ」とあり、また奥会津博物館・渡部康人氏の史料研究によると、宝暦 8 年（1758）、大石組には馬が 0 匹に対し、牛が 224 匹もいたといえます（史料は「陸奥国会津・大沼郡人別牛馬改帳簿」なお、【滝谷組馬 39 匹牛 1 匹】、【大谷組馬 103 匹牛 1 匹】）。

それでは、現三島町域のほとんどが属していた滝谷組や大谷組の各村における牛馬の数はどれくらいであったか、史料から示したのが表 1 と表 2 になります。ただし表 1 が寛文 6 年（1666）、表 2 が文化 3 年（1806）のものであり、地域だけでなく、時代が 140 年も離れていることから、単純な比較は難しくあります。また、牛馬の記載が脱けたものでは？牛馬の数が逆なのでは？と記載に疑問が生じる村や、史料に記載された合計と計算した合計の数が合わない、などといった気になる点もありますが、各村の牛馬のおおまかな数は把握できます。傾向としては、どちらの組も馬が優越しているものの、文化年間の大谷組においては、牛が宝暦の頃に比べて顕著に増加していることがわかります。

（町史編さん室）

表 1 滝谷組 15ヶ村の牛馬の数（寛文 6 年〔1666〕『滝谷組風土記並金山谷寄』より）

村名・端村名	滝谷村	松野原村	西方村	沼田	大石田村	中野	名人村	高山	飯岡	湯八木沢村	大嶺村	田代村	松ノ下	中村	牧沢村	猿倉	鳥屋村	遅越渡村	中屋敷	九々明村	沢中村	高森村	合計（計算）	合計（記載）
牛					3										3								6	12
馬	10	9	15	2	11	1	5	2	1	7	5	6	3	3	3	8	2	3	1		1	4	102	92

表 2 大谷組 16ヶ村の牛馬の数（文化 3 年〔1806〕『銘細帳摘書』より）

村名																
大谷村	浅岐村	間方村	桑原村	宮下村	川井村	大登村	小野川原村	砂子原村	五疊敷村	黒沢村	胄中村	芋小屋村	大沢村	漆峠村	琵琶首村	合計（計算）
8	7	1	4	17	4	8		5	3	4	1	記載無				62
31	11	22	10	5	6	15	4	8	7	11	10		13	2	10	165

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。

☎ (52) 2165



▲ 昭和 56 年 馬による材木搬出（齋藤茂樹氏撮影）

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ三島通信で健康教室を放送中です。
9月「身近な足のトラブル（むくみ）」です。
ぜひご覧ください。

📍福島県立宮下病院 📞(52)2321



町からのお知らせ

9月分納税のご案内

【納期限 9月30日(水)】

▼ 国民健康保険税 (第3期)
▼ 介護保険料 (普通徴収) (第3期)
▼ 後期高齢者保険料 (普通徴収) (第2期)
忘れずに納付してください。

📍町民課 町民係 📞(48)5555

ご寄附ありがとうございました

ふるさと納税(7月分)

寄附件数1件 計19,000円

👶 はじめまして赤ちゃん

三澤 龍聖 さん(西方)
(父：龍太さん・母：秋穂さん)

🌸 お悔み申し上げます

大竹 重壽 様(83才・滝谷)
須佐 二郎 様(85才・荒屋敷)
栗城 スイ子 様(88才・間方)

町の人口と世帯(8月1日現在)

人口	1,254	増減数	-3	出生	0
男	630		1	死亡	3
女	624		-4	転入	3
世帯	657		-2	転出	3

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

大石田友愛サロン	サロンなごみ
9月7日(月) 社会見学 大登サロン	9月17日(木) 午前10時から 西方ふるさとセンター 高清水・小山いきいきサロン
9月7日(月) 午後1時30分から 大登生活改善センター	9月17日(木) 午前10時から 高清水集会所
川井友愛サロン	ほがらかサロン
9月9日(水) 午前10時から 川井集会所	9月17日(木) 午前10時から 森の校舎カタクリ
間方いきいきクラブ	ひまわりサロン
9月11日(金) 午前10時から 間方集会所	9月28日(月) 午前10時から 町民センター
滝谷和楽塾	サロンないり
9月15日(火) 午前10時から 滝谷集会所	9月28日(月) 午前10時から 名入集会所
浅岐あったかサロン	
9月15日(火) 午前10時から 浅岐集会所	

◆ 心配ごと相談(弁護士相談) ◆

9月25日(金) 福祉センター
午前10時から15時まで ※要予約

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

大竹 克昌 様(滝谷)
📍社会福祉協議会 📞(52)3344

宮下病院からのお知らせ

夏のキケンに注意しましょう

宮下病院 愛ばんしょ外来

残暑厳しい毎日ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？
まだまだ暑い日が続きます。引き続き熱中症対策として、こまめな水分補給とエアコンを適切に使用するように心がけましょう。
また、スズメバチは8月～10月にかけて凶暴化します。ハチにアレルギーのある方は特に注意が必要です。お墓参りや草刈りなどで山に入る時には十分に気を付けましょう。

📍福島県立宮下病院 📞(52)2321

会津坂下警察署からのお知らせ

子どもの車内放置は虐待です！

炎天下の車内に子どもを放置する行為は児童虐待です。
炎天下の車内は少しの時間であってもすぐに高温になります。
子どもは身体の体温調節機能が未熟なこともあり、熱中症を発生した際には命を失う可能性があります。
子どもを乗せたまま車から離れないようにしましょう。
また、車内に放置された子どもを発見した際にはすぐに110番通報してください。

サイバー犯罪被害防止

子どもたちをインターネットの危険から守りましょう！

子どもたちもインターネットを日常的に利用するようになり、いろいろなネット犯罪被害にあっています。

- 事例1 SNSで知り合った者にだまされたりして自分の裸を撮影して送信させられた。
- 事例2 SNSで知り合った者に誘い出され、暴行被害を受けた。
- 事例3 ともだちに悪口のメールを送ってトラブルになった。

被害にあわないためにも、家族で話し合いインターネットの安全な使い方を考えましょう。

📍会津坂下警察署警務係 📞0242(83)3451

あなたの就職を応援します！—ふくしま生活・就職応援センター—

ふくしま生活・就職応援センターは、福島県内で働きたい方の就職を応援するために、福島県が県内6か所(郡山、白河、会津若松、いわき、南相馬、富岡)に設置した生活・就労支援施設です。

仕事をお探しの方にカウンセリングを実施し、能力・適性に合わせた求人情報を提供して就職を支援していますので、希望のある方はご相談ください。

連絡・問合せ先

会津若松事務所
〒965-0816 会津若松市南千石町6-5
会津若松商工会議所会館2階
(月)～(土) 10時～19時 ※(日)・(祝)および年末年始は除く
📞0242(27)8258

消防署からのお知らせ

全国で水害、土砂災害が頻発しています

近年、水害や土砂災害による被害が全国各地で発生しています。
2019年10月に発生した「令和元年東日本台風」と、その2週間後に発生した大雨により、福島県も大きな被害を受けました。
自然災害から自分の命と大切な人の命を守るため、日頃から災害への備えを進め、いざというときに備えましょう。

以下は今年5月に改定された気象警報の基準です。緊急時には、こちらを参考に、早めの避難を心がけてください。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

警戒レベル	対応
レベル5 特別警報	・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。 ・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。
レベル4 危険警報	・危険な場所から全員避難する。 ※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了する。
レベル3 警報	・避難に時間がかかる高齢者等は危険な場所から避難する。 ・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難をする。
レベル2 注意報	・ハザードマップ等で災害リスクを再確認する。 ・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する。
レベル1 早期注意情報	・災害への心構えを一段高める。 ・職員の連絡体制を確認する。

📍会津坂下消防署 三島出張所
📞(52) 3032 / FAX(52)3033

専任の相談員が常駐
経験豊かな専任の相談員が対応します(担当制)。 就職や生活再建に関するお悩みや不安など、お気軽にご相談ください。
生活資金情報・住居情報の提供
就職できるまでの生活資金や、住居の確保など生活再建に関する各種制度や、取扱窓口を紹介します。
地域就職氷河期世代等支援(郡山・会津若松・いわき事務所)
就職氷河期世代をはじめ、就労に困難を抱えている方の個々人の状況に応じた就職カウンセリングを実施しております。
就職相談・職業紹介
きめ細やかな就職相談を行い、センターが独自に開拓した県内企業の求人情報を紹介します。
各種セミナー・職業訓練情報
就職活動に役立つセミナー情報、イベント情報、希望する職種に必要なスキルを身に着けるための職業訓練など、最新の情報を提供します。
心理カウンセリング
就職における心理的な不安や悩みなど、心理の専門家が精神面でのサポートを行います。

第4回

ふくしま三大鶏フェス

会 場:道の駅尾瀬街道みしま宿

福島三大鶏(会津地鶏・川俣シャモ・伊達鶏)が大集合。

会場でぜひ三大鶏を味わってください。

10月10日(土) 9:00~16:00



問合せ:ふくしま三大鶏振興協議会
(役場産業建設課内)
☎0241(48)5566

第22回

会津の編み組工芸品展

会 場:三島町交流センター山びこ

会津地域で活躍する工人さんの実演。
編み組工芸品の展示・販売を行っています。



第13回

ものづくり再光

会 場:三島町生活工芸館

全国の工人さんによる作品販売・ものづくり体験を実施します。

10月10日(土) 9:30~16:00

10月11日(日) 9:00~15:00

問合せ:奥会津三島町編組品振興協議会
(三島町生活工芸館内)
☎0241(48)5502

町長スケジュール

9-10月

月日	曜日	予 定 公 務
9/5	土	第20回市町村対抗軟式野球大会
7	月	議会
8	火	議会
9 ~11	水 ~金	議会(決算説明※各課) 町長在庁
13	日	ミサカノヨゾラ2026
14	月	議会
20	日	会津まつり先人感謝祭・藩校行列出陣式
28	月	庁内連絡協議会
10/2	金	議会全員協議会

三島町公式Instagram

三島町では、4月より公式Instagramを開設しました。

観光やイベントの情報を発信しておりますので、ぜひアカウントをフォローのうえご覧ください。

投稿への「いいね」やリポストでの拡散にも、皆様のご協力をお願いいたします。



三島町公式LINE 開設しました

三島町では、8月より公式LINEを開設しました。
行政情報や身近な話題をお届けいたします。
ぜひ「友だち」追加をお願いします。

